

WSP 日本の水道鋼管 100号記念特集

歴史で追う 日本の水道鋼管



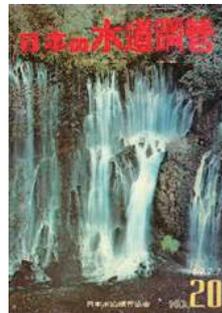
WSPが設立2年目を迎えた、昭和43年5月に「日本の水道鋼管」第1号を発刊しました。そして今号で100号を迎えることを記念し、今回は「日本の水道鋼管」でWSPの歴史を振り返ります。

◀創刊号ではグラビアで大口径管の誕生を大判の写真でダイナミックに表現しています。

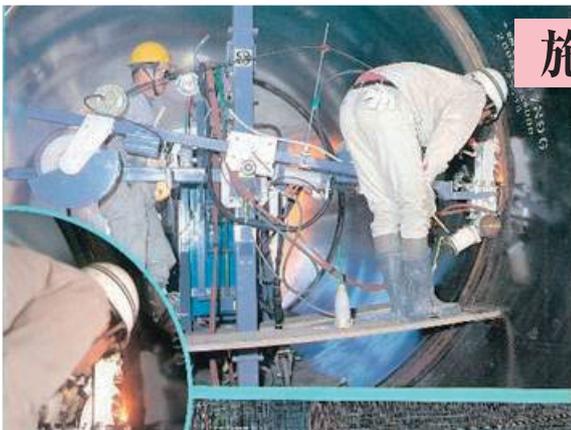
時代の象徴にも鋼管が寄与



◀5号（昭和45年5月）には大阪万博の松下館や太陽の塔広場で鋼管が使われていることが大きくPRされています。



▲20号（昭和52年10月）では明治32年に布設された長崎市の導・配水用リベット管の現存管を取り上げました。

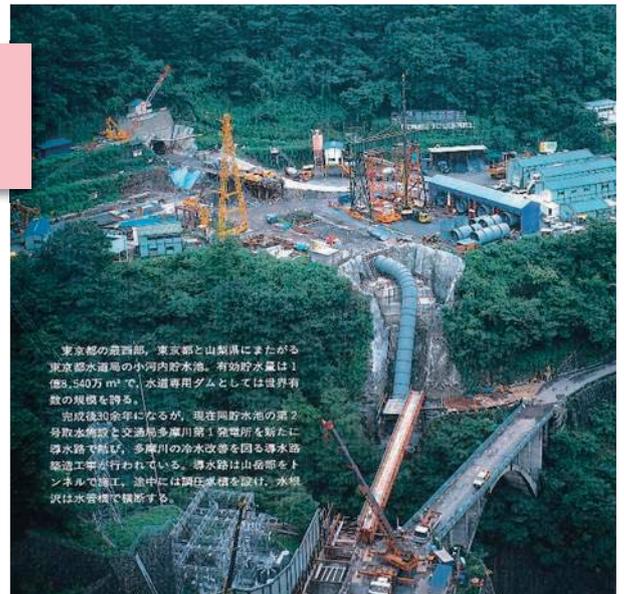


施工をより安定に、スピーディーに

◀30号（昭和57年10月）には当時、最新技術であった現地自動溶接機で施工している写真を掲載しています。施工時間の短縮や安定した施工ができ、従来の概念を大きく変えました。

平成に入り、 多様な展開を見せる鋼管

▶48号（平成3年10月）には東京都・小河内貯水池の冷水対策導水管に鋼管（φ3,300mm）が採用されたことを紹介。水道専用のダムとしては世界有数の規模を誇り、周囲と比較してもその大きさが分かります。



▲創立25周年記念特別号と銘打って発行した49号（平成4年4月）には25周年記念パーティーの様態を掲載しました。約800人が出席する盛大な会となりました。

▼65号（平成12年5月）には、兵庫県南部地震から5年が経過して水道管路の重要性が見直されたことから、耐震性能を確認する試験を行った旨を掲載しています。



▲鋼管は農業用水事業でも採用され、73号（平成16年6月）に九頭竜川の開水路に鋼管を布設した送水システムの再構築を行った写真を掲載しています



▲更新の時代となり、PIP工法の需要が高まってきました。97号（平成28年6月）では、内径1350mm鋼管溶接作業を紹介しています。